

海江田万里経済産業相が十八日、停止中の原発の再稼働を急ぐ意向を記者会見で表明した。「絶対反対」「安全」という根拠は「。原発が立地する地元住民には反発と困惑が広がった。」

経産相「再稼働を」

1、3号機が定期検査中の北海道電力泊原発の地元、泊村の赤坂明希子さん(モヒ)は「原発ができて恩恵も受けたが、事故が起きてから、安全の方が大事だと感じた。電力の大切さを考えるためにも、再稼働しなくていい」と批判した。

原発地元にも広がる困惑

「何を根拠に安全と様子を見かへた。言っているのか。孫や子どもの安全を考える」と、再稼働は絶対反対。青森県で建設中の大間原発から、最短二十三キロに位置する函館市のホテル従業員中村奈名子さん(モヒ)は険しい表情。北陸電力志賀原発が立地する石川県志賀町赤住地区の区長川畑繁さん(モヒ)は「夏場の電力不足を回避するため、判断がどうか、防潮堤の建設など実行されしていない対策もまだ残っている」と困惑した

安全の根拠は防潮堤必要説明が不十分

響や、電力供給のこととだけではいけない」を考えると、きれいごと語った。

